

大分市立滝尾小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	夢に向かって自ら学び、心豊かで最後までがんばり通すこどもの育成	
育成を目指す 資質・能力	○自ら問題を見付け、友だちと協働して、解決する能力の育成(問題発見・解決能力)	

児童の 課題	学力状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○全国学力・学習状況調査では、学校全体の平均正答率は、目標値や県平均正答率を上回っているが、個別に見ると、平均正答率に達していない児童もいる。学力の二極化が見られた。無解答のこどもも一定数いる。 ・国語の漢字や熟語、修飾語等の言語事項、目的に応じて、必要な情報を見付け、算数の計算力(個人差あり)、分数や単位量当たりの大きさ、速さと時間の関係や速さの意味についての理解に課題がある。 ○単元末テストの「平均点を85点以上に」「60%未満の児童4%以下にする」は、国語、理科においては達成している。算数は、平均点83.4点であり、60%未満の児童は8%いる。各教科、目標値を達成できていない学年もある。	学習状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○質問調査において、「分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」の質問に「当てはまる。どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合88.5%は、全国より高い一方、「どちらかといえば当てはまらない。当てはまらない」児童も11.6%いる。 ○質問調査において、「国語、算数の授業内容はよく分かりますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童の割合は、国語は、全国、大分県の割合より高いが、算数は、大分県の割合より低い。 ○年度初めに、滝尾小学校および滝尾中学校区家庭学習(宿題)の手引きを配布しているが、家庭での学習時間ややり方等に個人差が見られる。 ○正答率が低い児童ほど、授業に集中できていない傾向にある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童の状況(授業及び授業以外の側面から) ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「授業が終わった時に、『分かった、できた』という気持ちになっている」の肯定的評価は90.5%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「今月の『学習のめあて』を守っている」の肯定的評価は91.2%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「滝尾っ子ノートのきまりを守って、授業でノートに(低:ていねいに、中:考えを、高:考えを工夫して)書いている」の肯定的評価は88.7%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「家で学年に応じた時間勉強している」の肯定的評価は80.3%であった。	
	指導の状況 1 組織的な授業改善の取組状況 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)で「新大分スタンダードに基づく毎日の授業により、こどもたちが『授業が分かった』喜びや楽しさをあじわえる授業づくりを心がけた。」の肯定的な評価は97%であった。 ○1学期の学校評価アンケート(教職員)で「滝尾っ子ノートのきまり」を定着させるとともに、こどもたちがノートに考えを工夫して書くよう指導した。」の肯定的な評価は81.3%であった。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○授業や家庭学習(宿題)において、既習事項の定着に向けて反復練習を行っている。 ○一人1台端末を活用して個に応じたドリル学習を取り入れている。 ○主に高学年において、ロイロノートを活用して、自分の考えをまとめ伝え合う活動を行っている。 ○児童の学力向上につなぐため、教科担任制を5・6年生で実施している。	

学力に関する達成指標	
1・2年は国語・算数、3年以上は国語・算数・理科において、単元末テスト平均85点以上にする	

今後の 具体的 な取組	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 自分の考えをもち伝え合い深く学ぶ児童の育成 ～考えの形成場面・振り返り場面における児童の伝え合う力を育て、 考えを深められる指導の工夫～	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 ○「分かった、できるようになった」があじわえる授業作りと振り返りの時間の工夫。 ○「今月の学習のめあて」を全校で共有し、学習規律指導を徹底。 ○板書とノートの一体化に努め、「滝尾っ子ノートのきまり」を全校で共有し、ノート指導を徹底。 ○習熟度別授業や補充学習の場を設定し、一人1台端末を活用した学習や補充プリントの準備・実施により低学力層の学力向上を図る。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・「滝尾小学校・滝尾中学校区 家庭学習の手引き」を参考に、家庭学習の習慣化に取り組む。 ・児童が持ち帰った一人1台端末を活用し、家庭学習に取り組ませる。
	〈取組指標〉 ○毎時間、大分スタンダードに即した板書の構造化に取組、毎時間振り返りの時間を設定。 ○「今月の学習のめあて」を掲示するとともに、毎日、児童に振り返りをさせる。 ○「滝尾っ子ノートのきまり」の指導の徹底を図り、ノート検定に挑戦させる。 ○学年部毎に低学力層に向けての指導体制を工夫し、月2回以上の個別指導を実施。 ○補充プリントだけでなく、デジタルドリル等タブレット端末を活用し、個に応じた補充学習を単元毎に実施。	〈家庭・地域の取組指標〉 各家庭で、「滝尾小学校・滝尾中学校区 家庭学習の手引き」に基づいた学習時間・内容に取り組む。
	〈検証指標〉 ○新大分スタンダードに基づく毎日の授業により、「授業が分かった」と回答する児童95%以上。 ○「滝尾っ子ノートのきまり」により、「ノートに工夫して書いている」と回答する児童90%以上 ○習熟度別授業や補充学習等の実施により、単元末テストで60%未満の児童4%以下。	〈家庭・地域の検証指標〉 学校評価アンケート(保護者)において、「こどもは家で決められた時間(学年×10分+10分)、勉強している」に肯定的に答える割合を85%以上にする。
	【授業改善以外の学力向上の取組】	
	○滝尾小学校および滝尾中学校区家庭学習(宿題)の手引きを周知し、保護者と家庭学習について連携を図る。 ○小中一貫教育の推進を図り、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う。 ○多読賞の推奨や調べ学習等による図書館利用の促進を図り、児童の読書活動を推進する。 ○3、4年生の算数においては、常に複数指導体制をとり、個の課題に応じたよりきめ細かな指導ができるようにする。 ○単元に関係なく、学習プリントの中に既習事項を振り返る小問題を位置付け、継続的に基礎・基本の定着を図る。 ○デジタルドリル活用し、個に応じた補充学習を積極的に実施する。	